

甲南女子大学生のための 生成 AI 活用ガイドライン

— 学びに生かすための基本と注意事項 —

このガイドラインの目的

みなさんが生成 AI を安心して、かつ効果的に活用できるよう、基本的な考え方と注意点をまとめたものです。

1. はじめに

生成 AI は、文章作成・情報整理・翻訳・プログラミング支援など、さまざまな知的活動を手助けする技術として急速に広がっています。大学での学びや研究でも、うまく使えば理解を深めたり、思考を整理したり、新しい発想を得たりすることにつながります。本学は、みなさんが生成 AI を「**主体的な学びを支えるパートナー**」として適切に活用することを期待します。

ただし、生成 AI の出力はいつも正しいとは限りません。確認せずにそのまま使うと、学術ルールに違反したり、個人情報面でトラブルになったりするおそれがあります。生成 AI を使うときは、出力を自分で確かめ、最終的な判断と責任は自分自身にあるという意識を持つことが大切です。

2. 生成 AI とは何か

生成 AI とは、大量の文章や情報のパターンを学習し、人が書いたような文章・画像・プログラムなどを自動的につくり出す技術です。質問への回答、要約、翻訳、アイデア提案など、幅広い知的作業に利用されています。

生成 AI は、与えられた指示（プロンプト）にもとづいて「もっとも自然に見える表現」を組み立てますが、人間のように内容を理解して判断しているわけではありません。そのため、常に適切で正しい情報を出力するわけではありません。特に、**もっともらしいが誤った情報**を出力することがあり、これを「**ハルシネーション（幻覚）**」と呼びます。

項目	内容
得意なこと	文章の要約・翻訳、アイデアの整理、下書きの作成、プログラミング支援など
苦手なこと	事実の正確な確認、最新情報の把握、実在文献の特定、専門的な判断
注意が必要なこと	ハルシネーション（もっともらしいが誤った情報の出力）、実在しない文献の紹介、偏った見方の出力

生成 AI は「思考を代わりにしてくれる装置」ではなく、「**主体的な学びを支えるパートナー**」です。出力をうのみにせず、自分で確認・修正する姿勢を大切にしましょう。

3. 生成 AI 活用の基本姿勢

ここでは、生成 AI をうまく活用するための基本姿勢を、3 つのステップで整理します。

ステップ	基本姿勢	なぜ？
① 目的を明確にする	何を知りたいか、どんな成果物をめざすかを具体的に言葉にする	指示が具体的なほど、AI の出力も的確になります。あいまいな指示では、ぼんやりした回答しか得られません。
② 出力を確認する	得られた回答を教科書・授業資料・信頼できる文献などと照らし合わせる	AI の回答には誤りが含まれることがあります（ハルシネーションなど）。必ず事実確認（ファクトチェック）をしましょう。
③ 自分で再構成する	出力をそのまま使わず、自分の理解で書き直したり、追加の質問をしたりする	AI は「思考を代わりにしてくれる装置」ではなく、「学びを深めるための補助的なパートナー」です。対話を重ねて思考を深めましょう。

生成 AI を有効に活用するには、単に質問するだけでなく、目的を明確にし、出力内容を確認しながら対話的に利用することが大切です。生成 AI は、一度の指示で正解を返す装置ではなく、試行錯誤を通じて自身の思考を整理し、視点を広げるための支援ツールとして活用することが望めます。

4. 注意事項と遵守事項

生成 AI は強力なツールですが、使い方を誤ると学術的誠実性や安全性に関わる問題につながり、**不正行為や法的な責任を問われる可能性があります**。

以下の事項をしっかりと理解し、日常の学びの中で実践してください。

4-1. 教員の指示の遵守

授業や課題での生成 AI 利用の可否や範囲は、授業担当教員の指示が最優先です。思考力・読解力・語学力などの評価が目的の課題では、生成 AI の利用が制限されることがあります。このガイドラインは各授業での具体的な指示に優先するものではなく、授業ごとに利用可否・範囲・申告方法が異なる場合があります。わからないことがあれば、自己判断せず教員に確認しましょう。

4-2. 利用の透明性

「透明性」とは、生成 AI を使ったことを隠さず、どのように使ったかを説明できるようにすることです。課題やレポートで生成 AI を使った場合は、教員の指示に従って利用の範囲や方法を明記してください。

記載例

「本課題では、生成 AI（ツール名）を（目的：論点整理／文章校正など）のために使用した。出力は授業資料や文献で確認し、最終的な内容は自分で判断した。」

どのような問いを立て、どこで生成 AI を使い、最終的にどう自分の考えにまとめたかを説明できることは、主体的に学んでいる証拠になります。逆に、利用を隠すことは成績評価に影響する可能性があります。

4-3. 入力情報の取り扱い

生成 AI に入力する情報には十分な注意が必要です。外部サービスに入力した内容は、サービスや設定によって、保存・再利用や「学習」（※）に利用される場合があります。

※「学習」とは、生成 AI サービスの性能向上のために、利用者が入力した内容などが活用されることをいいます。こうした取り扱いはサービスや設定によって異なるため、入力内容がどのように扱われるかを事前に確認し、個人情報・機密情報・未公開情報などは入力しないようにしましょう。

☑ 入力してよい情報（目安）	✕ 入力してはいけない情報
・公開されている一般的な知識に関する質問 ・自分で考えた文章の推敲依頼 ・一般的な学習内容に関する質問	・個人情報（自分や他者の氏名・住所・連絡先など） ・未公開の研究データ ・学内の機密情報 ・第三者の著作物や利用条件のある教材の全文 ・他者の顔写真、音声、動画など、本人の同意なく利用することが不適切なデータ

🔑 判断に迷ったら

「この情報が公開され、不特定多数の人に見られても問題がないか？」と考えてみてください。少しでも不安があれば、入力を避けましょう。

4-4. 出力情報の取り扱い

生成 AI の出力には、以下のような問題が含まれることがあります。必ず確認してから利用してください。

確認項目	確認すべきこと
正確性	教科書・授業資料・信頼できる文献と照合して、事実と誤りがないか確認する。
文献の実在	AI が挙げた文献名・著者名・統計値が本当に存在するか確認する（レポートや論文で、架空の文献を引用するのは不正行為にあたります）。
著作権	出力に既存の著作物と同一または類似した表現・画像・構図・キャラクター・楽曲・歌詞などが含まれていないか確認する。出力が既存の著作物をもとにしたものである場合や、既存の著作物と似ている場合には、著作権上の問題が生じる恐れがあるため、出典の明示、利用条件の確認、権利者の許諾、または使用の中止を検討する。
偏り・差別	特定の集団を不当に扱っていないか、差別的・攻撃的な表現がないか確認する。
自分の言葉か	出力をそのまま提出せず、自分で理解し、自分の言葉で書き直しているか確認する。
フェイクコンテンツ	出力された画像・動画・音声などが、実在する人物や出来事について誤解を与える内容になっていないか確認する。虚偽の内容を事実であるかのように示したり、他者を傷つけたりする目的で利用しない。

AI を使って画像・動画・音声を生成する場合の注意

AI を用いた画像・動画・音声の生成は、表現活動や学習資料の作成等に役立つ一方で、文章生成とは異なるリスクを伴います。特に、実在する人物に似せた画像・動画・音声や、実際には存在しない出来事を本物のように見せるコンテンツ（フェイクコンテンツ）は、他者の権利を侵害したり、誤情報の拡散につながったりする可能性があります。

このようなコンテンツを意図的に作成・公開するのは言語道断ですが、意図せずに権利侵害をしてしまう恐れも十分にあります。作成・公開に際しては、「この画像・動画・音声を見た人が、実在する人物や出来事について誤解しないか」、「本人や関係者が見たときに、不利益や不快感を与えないか」を必ず確認しましょう。

4-5. サービスの選択・設定

生成 AI を利用する際は、機能の豊富さだけでなく、入力データの取り扱い設定や利用条件を確認できるサービスを選びましょう。特に無料版サービスでは、細かな設定ができない場合があり、仕様を確認しないまま使うと意図せず情報が漏れてしまう可能性が高まります。

利用時に確認すべき設定項目：

設定項目	確認・対応すること
モデル改善（学習）への利用	入力データが学習に使われるかどうかを確認し、必要に応じて無効にする。
会話履歴の保存	不要な履歴は適切に削除する。
外部連携機能	不要な連携（クラウドストレージ・外部アプリなど）は無効にする。
共有端末での利用	ログアウトを徹底し、ブラウザの保存情報（自動ログインなど）にも注意する。

Microsoft Copilot の利用について

本学では Microsoft 365 のサブスクリプションサービスを利用できます。

本学がみなさんに提供するアカウントで Microsoft Copilot を利用する場合は、「エンタープライズデータ保護」が適用され、入力データはモデル改善（学習）に使用されません。

また、会話履歴に関連して、有用な出力内容（チャットのログ、生成させたデータ等）は、必要に応じてコピー・保存して、自身の端末等に残しておくことをお勧めします。サービスによっては、一定期間を過ぎた履歴が自動的に削除されてしまう場合があります。また、基本的にサービスは第三者からアカウントを付与されて利用することから、何らかの理由で履歴ごとアカウントが無効化・消去されてしまう恐れがあるためです。

5. 生成 AI 時代の学びと求められる力

生成 AI は社会のさまざまな分野で活用が広がっています。在学中に生成 AI に触れ、適切な使い方を学んでおくことは、将来の学び方・働き方を準備するうえで大きな意義があります。

ただし、「生成 AI を使えること」と「生成 AI を適切に使いこなせること」はイコールではありません。使いこなすためには、次のような力を身につけることが大切です。

求められる力	具体的には？
問いを立てる力	何が問題なのかを自分で見つけ、適切な問いの形にする
目的を設定する力	何のために AI を使うのか、ゴールを明確にする
情報を判断する力	AI の出力の真偽や有用性を見極める
他者と協働する力	AI だけではなく、人と対話しながら学びを深める
倫理的に判断する力	他者の権利や社会への影響に配慮して行動する

生成 AI は思考を代替するものではなく、思考を拡張する道具です。

みなさん一人ひとりが、試行錯誤を重ねながら自分にとっての活用方法を見つけ、責任ある活用を通じて成長につなげていくことを期待します。

本ガイドラインの作成にあたって

本ガイドラインの作成にあたっては、OpenAI 社の ChatGPT を使用し、論点の整理、内容の妥当性検証を行いました。加えて、Anthropic 社の Claude を使用し、デザインの編集を行いました。

付録：大学における生成 AI の活用例

学びや研究を「補助」する目的で生成 AI を活用できる場面を紹介します。

⚠ 重要な前提

- ・ 文章作成・要約・翻訳そのものが課題として出されている場合など、その力を身につけることが目的の場面では、AI に作業を代わりにさせることは不適切です。課題の趣旨をよく確認し、授業担当教員の指示を優先してください。
- ・ 個人情報や機密情報を入力しないようにしましょう。法的な責任を問われる可能性があります。
- ・ 利用にあたっては、第 4 章「注意事項と遵守事項」もあわせて確認してください。

1. 授業前の予習

活用例	プロンプト例	留意点
・教科書や講義資料の要点を整理し、学ぶべきポイントをつかむ ・専門用語や概念を、わかりやすい言葉で説明してもらう	「この章の重要語句を 5 つ挙げ、それぞれを 1 文で説明してください」 「この概念を初学者にもわかるように説明し、関連する前提知識も示してください」	⚠ AI の説明には誤りや不正確な単純化が含まれることがあります。教科書や授業資料と照合すること。 ⚠ 理解を AI 任せにせず、自分で問いを立てながら解釈することが大切です。

2. 授業後の復習

活用例	プロンプト例	留意点
・確認問題や小テストを作成し、理解度を点検する ・自分なりにまとめた説明文を見せ、抜けや誤解がないか確認する	「この内容についての確認問題を 3 問作ってください」「私の回答を採点してください」 「以下の私の説明のうち、不正確な点や曖昧な点を指摘してください」	⚠ 答えをそのまま覚えるだけでは、理解したつもりになるおそれがあります。自分で考えたうえで確認に使うこと。 ⚠ AI が作る問題の質は一定ではないため、授業内容とのズレがないか確認すること。

3. レポートのテーマ設定・論点整理

活用例	プロンプト例	留意点
・テーマを広げたり、論点を整理したりする ・賛成・反対・留保など複数の立場から考える視点を得る	「このテーマで考えられる論点を、賛成・反対・留保に分けて整理してください」 「この構成案の弱い点や、追加したほうがよい観点を指摘してください」	⚠ 最終的な問いの立て方や主張の軸は自分で決めること。 ⚠ 構想段階から AI の利用が制限される場合もあるため、教員の指示を確認すること。

4. レポート・論文の推敲

活用例	プロンプト例	留意点
・自分で書いた文章のわかりにくい箇所や冗長な表現を見直す ・段落構成、接続、表記ゆれ、誤字脱字などを点検する	「論旨を変えずに、読みやすくなるよう表現上の改善点を示してください」	⚠ 自分で書いた文章を改善するための補助として使うこと。 ⚠ 本文を AI に作成させて、そのまま自作として提出するのは、そこに架空の情報が含まれる場合は、事実を捏造したものと見なされます。また、みなさん自身の理解・思考・表現を評価するという課題の趣旨に反し、成績評価の公正性を損なう行為として、不正行為にあたる可能性があります。授業担当教員にルールを確認したうえで、適切に使用すること。

5. 文献探索の準備

活用例	プロンプト例	留意点
・テーマに関連する検索キーワードを整理する ・類義語や関連語、日英の言い換えを洗い出す ・検索語の組み合わせを考える	「『大学生の生成 AI 活用と学習』について文献を探したいです。学術的な文献の検索に使えるような日本語・英語のキーワードを挙げてください」 「『自己肯定感と学習意欲の関係』を調べたいです。類義語や関連語を含めて、検索に使えるような語を整理してください」	⚠ AI に文献そのものを探させるのではなく、自分で検索するための準備として使うこと。 ⚠ AI は実在しない文献名・著者名などをもっともらしく示すことがあります。必ず実在確認をすること。 ⚠ 出力されたキーワードはたたき台として、自分のテーマに合うよう修正すること。

6. 外国語学習

活用例	プロンプト例	留意点
・英文・外国語資料の要点を把握する ・英作文や会話練習の相手として使い、表現の改善点を確認する	「この英文の要点を日本語で要約し、重要語句も挙げてください」 「この英作文を自然な表現に直し、どこをどう直したか説明してください」	⚠ 翻訳や作文を丸ごと任せると語学力を伸ばす機会が失われます。下書き・比較・確認の補助として使うこと。 ⚠ 語感や専門的なニュアンスを誤ることがあるため、辞書で確認したり、教員から指導を受けること。

7. プログラミング・データ分析の学習

活用例	プロンプト例	留意点
・コードの意味やエラーメッセージの読み方を学ぶ ・サンプルコードや分析手順を比較し、理解を深める	「このエラーメッセージの原因候補を 3 つ挙げ、確認方法も示してください」 「このコードを初心者向けに 1 行ずつ説明してください」	⚠ AI のコードには誤りや非効率な処理が含まれることがあります。実行前に内容を確認すること。 ⚠ 独力での作成が求められている課題では、利用範囲を事前に確認すること。

8. プレゼンテーションの準備

活用例	プロンプト例	留意点
・発表の構成案、見出し、想定質問などを考える ・時間に応じた説明原稿を作る	「この発表に対する想定質問を 10 個挙げてください」 「この内容について、3 分版と 5 分版の説明原稿を作成してください」	⚠ 発表の説得力は、AI による出力の美しさではなく、自分が内容を理解して説明できるかどうかにかかっています。 ⚠ 数値・引用・事例を使う場合は、原資料に戻って真偽と出典を確認すること。

9. グループワーク

活用例	プロンプト例	留意点
・議論の論点整理や役割分担案の作成に使う ・議論内容の要約や企画案のたたき台づくりに活用する	「この議論を論点ごとに整理し、次に決めるべき事項を示してください」 「この企画案の抜けや改善点を指摘してください」	⚠ AI の案をそのまま採用せず、たたき台として使い、最終判断はメンバー同士の議論をつうじて行うこと。 ⚠ 個人情報や内部情報を入力しないこと。

10. 学習計画・自己管理

活用例	プロンプト例	留意点
・試験や課題提出に向けた学習計画を立てる ・弱点や目標に応じた学習方法を整理する	「来週の試験まで、毎日 1 時間で取り組める学習計画を作成してください」 「この課題を期限までに進めるための作業手順と優先順位を示してください」	△ AI はあなたの理解度や生活状況を把握していないため、提案をそのまま使わず自分に合うよう調整すること。 △ 成績・健康状態・個人的事情など、センシティブな情報を入力しすぎないこと。

上記はあくまで一例です。生成 AI は、使い方や問いの立て方を工夫することで、さまざまな場面で有効に活用できます。ルールを守りながら、自分なりの活用方法を見つけていきましょう。

他者の視点も生かして、生成 AI とともに考えを広げ、学びを深める

上で紹介した活用例は、具体的な場面や課題を前提として想定したものです。一方で、アイデアやふとした思い付きを、生成 AI に投げかけることも有効です。これによって新たな気づきや発想を得られることがあります。

たとえば、授業中に気になったこと、資料を読んでいて疑問に思ったこと、グループディスカッションを通じて興味をもったことなどを生成 AI に入力してみると、自分では気づかなかった視点や、関連する問い、調べるべき論点が示されることがあります。生成 AI は、完成した答えを得るためだけでなく、自分の考えを広げたり、言葉にしたり、別の角度から見直したりするためのパートナーとしても活用できます。このように生成 AI を探索的に使うことで得られた気づきや発想を、自分で調べ、考え、確かめることで、より深い学びにつなげることができます。

また、生成 AI とのやり取りを通じて得られた気づきや発想は、友人やグループのメンバー、授業担当教員など、他者に意見を求めることで、さらに深めたり、より実現可能なものに磨いたりすることができます。他者も交えながら、生成 AI の出力結果に対して自分とは別の角度から意見をもらったり、自分では気づきにくい前提や偏り、説明が足りない点を指摘してもらったりすることで、考えがより明確になったり幅が広がり、さらに学びの質を高めることにつながります。

なお、このように利用する際も、生成 AI が示した内容をそのまま受け入れるのではなく、「本当にそう言えるのか」「他の見方はないか」「この根拠は何か」と、自ら考えながら利用することが大切です。また、授業課題等で事実として提示する際には、このガイドラインで示したルールや授業担当教員の指示に従ってください。